

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570500274		
法人名	社会福祉法人 コスモス会		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	宮崎県小林市真方5038-1		
自己評価作成日	平成27年2月5日	評価結果市町村受理日	平成27年6月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2012_022_kanistrue&amp;jisyosyoCd=4570500274-00&amp;PrefCd=45&amp;Version=022">http://www.kaisokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2012_022_kanistrue&amp;jisyosyoCd=4570500274-00&amp;PrefCd=45&amp;Version=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>※日中、夜間共に転倒に十分注意します。                  ※水分摂取の徹底、排便コントロールなどに十分注意しながら体調管理に努めます。                  ※季節ごとに花の植え替えをしながら、花のある生活を楽しんでいただきます。                  ※清掃を徹底し、気持ち良く生活していただきます。同時に感染予防に努めます。                  ※利用者の皆さんが、いつでも、安心して居られるように、職員皆笑顔です。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>社会福祉法人を母体を持ち、特別養護老人ホームが同じ敷地内にあり、行事や防災訓練等での協力体制が築かれている。ホームは高台にあり、外を見ると町が一望でき、ようこう桜が利用者の心を和ませている。職員は、ホームの理念を握り下げ、落ち着いた対応とやさしい声かけを念頭に置き、日々のケアにあたっている。利用者の集うホールは、テーブルやソファが設置され、ゆったりとした空間でくつろげるように工夫されている。また、職員会議やミーティング時には、意見を出しやすい環境が築かれ、意見や提案を生かし運営に取り組んでいる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ひだまり会にて毎回理念の提唱をし、職員全体で理念の共有をしている。	理念を毎日の朝のミーティング時に唱和し、全職員で共有・意識してサービス実践を行うとともに、月1回の職員会議の中で見直しを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	いろいろな行事を通して、地域の方と触れ合う時間を設けている。	地域の自治会に加入し、行事案内が届いたり、参加することもある。老人クラブや認知症サポーターの方の来訪も定期的にあり、母体施設と合同で行われる夏祭りには、地域の住民も多く参加し、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの方たちの来所時、ご家族の来所時に認知症の理解、かかわり方等をお話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政職、家族の代表、事業所職員等の参加の下、運営推進会議を開催し、会議での意見を参考に支援に活かしている。他のグループホームの合同会議にも参加し、サービスの向上に活かしている。	2か月に1回の推進会議は、利用者の活動状況の見える場所で開催している。運営推進会議で提案のあった行事の写真入りの資料等を作成し、サービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の行政職の出席により、市に対しても意見をいただいたりしながら、協力関係を築けている。	市の担当者が毎回運営推進会議に参加し、ホームの状況を把握してもらっている。また、事故報告書は毎回窓口に持参して詳しく説明し、相談しやすい関係を構築しており、連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に人権を考えながら、取り組んでいる。	職員は、外部の身体拘束研修に参加し、ホーム内でも勉強会を行い、身体拘束の具体的な内容や弊害を理解しており、玄関は施錠することなく対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に人権を考えながら、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に重要事項の説明を行い、利用者、家族に理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日々の会話の中で不満、苦情などの意見を聞いたり、表情などでの確認に努めている。ご家族には来所持、運営推進会議でのご家族の代表のご意見、要望などを伺うようにしている。	家族会はできていないが、敬老会等で話し合う機会を設け、ささいなことでも話せる雰囲気作りをしている。運営推進会議の中でも、家族の代表として意見をもらっている。意見の出せない利用者は、表情やしぐさで確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	要望等はいつでも言ってもらえるような職場の雰囲気作りに努めている。	月1回のひだまり定例会で職員の意見を聞く場を設けている。年1回行う人事考課の中で、職員が意見を言えるようになっている。管理者と職員のコミュニケーションが図られており、職場の雰囲気も良い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	要望等を聞きながら、その都度、可能な範囲で対応し、働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会での勉強会、他外部研修への参加、内部の勉強会などで常に質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会県西ブロックでの会議で交流を深め、同業者と電話での意見交換を行ったり、訪問等の交流もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気作り、本人の話に傾聴し、安心していただけるように努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気作り、安心してお話でき、いつでも来所していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族が必要とされている事を見極め、安心していただけるように努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのかかわりの中で、生活の知恵やことわざなどを教えていただくこともあり、出来ることはお手伝いいただき、共に支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に情報を共有し、連絡相談を密に行い、一緒にご本人を支えていける関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の来所、外出、親戚の家に行ったり、関係が途切れないように支援している。	なじみの方のホームへの来訪や家族の協力を得て墓参りに出掛けたり、外食や温泉に行くなど、利用者の希望を取り入れた支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように席を変えたりしながら、利用者同士が仲良く過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も外出先などでお会いした時は、気軽にお話しできるような関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望んでいる事やどのように暮らしたいかを、ご本人とお話をしたり、ご家族にお話を聞いたりしながら、本人の意向を把握できるように努めている。	利用者の表情や行動の中から、意向の把握に努めている。また、利用者の情報を本人や家族から聞き取り、少しでも思いや意向に沿えるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供やご家族からお話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりのその日の状況、状態に応じて出来ることをやっていただいたり、有意義に過ごしていただくように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当の意見を中心に皆で話し合い、利用者が穏やかに暮らせるように、その都度会議を行ったりしながら、介護計画に生かしている。	月1回のモニタリングを行い、また、介護計画の見直しや担当者会議等も行っているが、介護計画に散歩などの外出支援が盛り込まれていない。	利用者が地域でその人らしく暮らすために、近隣の散歩等の外出支援を介護計画に盛り込むなど、更なる取組を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた事やケアについては個別の記録と共有できるノートに記入し、職員全員に周知・徹底できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養、居宅、デイサービスなどの併設施設であり、それぞれの事業所とも連携しながら支援している。		

宮崎県小林市 グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの方との交流の場、ボランティア、学校、消防等の支援もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医を受診できるように支援している。また、協力医療機関も利用者全員を支援していただいている。	かかりつけ医は、本人、家族の希望の医療機関となっている。毎週、協力医の訪問診療があり、適切な医療が受けられる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	それぞれの利用者の状態等、特養の看護師に相談しながら、緊急時の支援体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は度々病院に来院し、本人に面会したり、看護師と情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にはご家族に事業所の状況を説明し、重度化した場合のためにも、他施設の申込みも勧めている。	終末期の看取りについては、ホームの方針として、重度化した時点で法人内の特別養護老人ホームへ移行する仕組みが作られている。ホーム入居時に、本人、家族に十分説明を行い、書面を準備し、双方の確認を行うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを備え、定期的に緊急対応の勉強会等に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施したり、併設の特養の協力、地域の協力体制も整えている。	消防団、地域住民の協力を得て、年2回、法人内の施設と合同で総合防災訓練を実施している。その他、毎月ホーム独自で防災訓練を行い、マニュアルも整備している。火災時など、地域住民への通報用に母体施設の屋上にサイレンを設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉使いには気をつけるように指導している。それぞれの利用者の人格を尊重しながら支援するように努めている。	丁寧な声かけを実践し、利用者の居室のドアは閉められており、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーの確保に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員全員がそれぞれの利用者を理解し、できるだけご本人に決めていただいたり、本人の意に沿う支援が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムにあわせ、希望に添った支援をするよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に利用者の身だしなみに気を配り、本人の望むオシャレもしていただけるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その都度、利用者を確認したり、好みを聞いたりしながら、食事を楽しんでいただけるように支援している。	ゆったりとした雰囲気の中で食卓を囲み、会話をしながら食事をし、利用者同士であと片付けや台拭きを行うそばで職員が見守る光景が見られた。おやつにホットケーキやたこ焼きを作る支援も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の健康状態の把握を職員全体が出来るように十分な引継ぎを実施しながら、支援している。その日の利用者の状態も、その都度、報告等で確認するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの利用者の排泄パターン、週間などを把握し、全職員が同じ支援が出来るようにしている。	排せつ記録表で排せつ時間を把握し、他の利用者に気づかれないようにそっと誘導している。日中は、全員トイレに誘導し、夜間も数名の利用者のトイレ排せつ支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者それぞれの排便状況をチェック表で確認しながら支援している。水分摂取の徹底、運動などを実施しながら便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の利用者の体調、希望などを聞きながら、お一人ずつ入浴している。	週3回の入浴を基本としているが、希望があればいつでも対応できるようにしており、一人ずつゆっくり入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣を考えながら、夜間にゆっくり休んでいただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が利用者それぞれの服薬についての理解をしながら、誤薬の無いように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに出来ることをお願いしながら、役割を持っていただけるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力もいただきながら、外出、外泊等を実施している。	利用者の希望でデイサービスの車を利用してドライブに出掛けたり、家族の協力で温泉に行くこともある。天気の良い日は敷地内で外気に当たりながら、お茶を飲むこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の為に必要な物品の購入の為に小口現金を預かり、通帳管理している。ご家族に定期的に直接通帳を確認して頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でお話していただいたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの雰囲気作りや居心地のいいようにとの空間作りに努めている。	窓から自然な景色が眺められ、季節を感じられるようになっている。共用スペースはテーブルの他にソファを設置し、温度や彩光にも気を配り、利用者にとって居心地の良い場所となるよう努めている。壁時計の位置は利用者目線で、手づくりのカレンダーを飾り、手洗いの水も温度設定されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間作りと同時に、個人の居場所についても配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族が希望されれば、安全を考えながら落ち着ける居室作りを心がけている。	居室には備え付けの整理だんすが設置され、その上に家族の写真や手作りの飾りものがならべてあり、清潔で居心地よく過ごせるよう配慮している。入口のドアは閉められており、廊下から中が見えないよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に「出来ること」「わかること」を活かしながら、自立支援に努めている。		